

【鹿児島県大島郡大和村】

大和村校務DX計画

「GIGAスクール構想の下で校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、校務DXに係る具体的な取組を下記のとおり定める。

1 GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

大和村ではGIGAスクール第1期より、校務支援システムやグループウェアを導入し、併せて鹿児島県県域教育用アカウントによる汎用クラウドツール等を活用することにより、教職員の働き方改革を推進してきた。その結果、グループウェアやクラウド環境を活用した連絡事項、保護者へのアンケート、各種資料の共有、諸帳簿及び児童生徒の出席状況等の管理や研修のオンライン化などを推進してきた。

しかし学校間、教職員間による活用の差があり、紙ベースでのやり取りや資料、非効率な業務作業なども依然として見受けられるため、まず汎用クラウドツールの有効性に関する理解を深めることが必要と考える。具体的には、教職員を対象としたICTリテラシー向上のための研修の実施やICT支援員の派遣等を行っていく。

2 ペーパーレス化の推進による校務の効率化

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していると指摘されている。

教育委員会としては、今後関係団体や事業者等を把握し、緊急時等を除き原則廃止に向けて、慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行っていく予定である。また、鹿児島県県域教育用アカウントにより教職員1人1人にメールアドレスが付与されているため、こちらの利用促進についても促していきます。

押印について、報告用式や提出書類等の見直しを図り、デジタルでの申請及び承認を可能とする予定で、今後、電子署名や電子決裁の利用を標準化し、紙ベースの手続きを段階的に廃止していけるよう調査する。

3 教育情報セキュリティポリシーの策定

必要なセキュリティ対策を講じた上で、クラウド上のデータやサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定し、今後、教職員への研修や周知を図るとともに、国の方向性や現状を的確に把握し、随時改定を行っていく。

4 校務における生成AIの活用

今後、校務における生成AIの活用、併せて児童生徒用生成AIについても実証実験を行い、情報活用能力を育む教育活動をより一層充実させ、AI時代に必要な資質・能力の向上を図る。